

赤こんりポート

東恵子リポーター



## 人を幸せにする「八幡靴」づくり

大分県出身の合澤朱里さんと兵庫県出身の高橋里奈さんはともに25歳。大学時代から手仕事に興味があり「自分の作ったもので人を幸せにしたい」と、靴職人の道に入った合澤さん。高橋さんは、自分に合った靴が見つからないことと、足のマッサージ店を営む家業の影響で、自ら靴を作ることを志しました。2人は働き始めて約1年半。靴底やアッパーと呼ばれる外側の部分の縫製もマスターし、1足作ることができるようになったそうです。

若手の育成に力を入れている会社で、独立も応援してくれています。紳士靴を選ぶ女性からのオーダーも増えました。

「使い捨てでなく、1足を長く大事に履いて欲しい。修理やメンテナンスもしています」と高橋さん。合澤さんは「2人で全国行脚したいな。オーダー会を開いて、八幡靴の良さを広めたい」と話していました。

赤こんりポート

今井良治リポーター

会のモットーは「絵はだれにでも描ける」  
110回目の八美会展ひらく

本市で生まれ湖国で育つ絵画愛好者グループ「八美会」の第110回展が5月13日から15日まで、市文化会館で開かれました。今回は、34人の会員がとっておきの力作61点を展覧。初日は恒例の鶴房健蔵会長による作品の講評も行われました。

草津市の水生植物公園の蓮池などを題材にした水彩画2点を展覧した篠原町の森泰宏さんは「入会し、はや20年余り。絵を描くという共通の趣味に集う仲間とわいわいおしゃべりするのが至福のひととき」と話していました。



赤こんりポート

松村美沙枝リポーター

地域の輪、市民活動の輪  
近江八幡の未来を動かす原動力に

4月16日、G-NETしがで第3回ハートランド推進賞授与式と第52回八幡塾「流域再生 - 流域治水と小さな自然再生」が開催されました。ハートランド推進賞には、個人の部では塩川和宏さん、団体の部では白鳥川の景観を良くする会が表彰されました。八幡塾では、河川付近での災害や整備状況、防災と環境の融合学習などの事例が報告されました。統計からは、お祭りなどの地域活動が盛んな場所ほど地域防災力が高いという結果が出ているそう。日頃のつながりを大切に、いざというときにも備えたいですね。

4月30日

八幡山麓の竹林でゴールデンウィークを満喫  
親子タケノコ掘り大会

近江八幡市を見下ろす八幡山麓の八幡公園周辺で親子タケノコ掘り大会が開催され、40家族203人が参加しました。

クワやスコップを片手に竹林に足を踏み入れ、タケノコを見つけ慣れない手つきで根元を掘り起こしました。「採れた!」という声次々と響いていました。掘った後には、採りたてのタケノコが入ったカレーが振る舞われ、竹細工教室や紙芝居などを楽しみました。

主催した「八幡山の景観を良くする会」代表の村西耕爾さんは「タケノコ掘りを通じて、八幡山のことに興味を持ってもらえれば」と話していました。

5月12日

八幡工業高校レスリング部坪田さんが  
キルギスでのアジア選手権大会に出場

6月19日から中央アジアのキルギスで行われるレスリングのU17アジア選手権大会に、八幡工業高校3年の坪田諭依さんが日本代表として出場することが決まりました。

坪田さんは、今年4月に横浜武道館で行われた2022年JOCレスリング選手権大会U17に出場。腰から下を使わずに上半身で攻防を繰り広げるグレコローマンスタイルの48kg級で見事2位に入賞し、今大会への出場権を獲得しました。

この日、同高レスリング部の倉本忠監督とともに、小西市長のもとを訪れた坪田さんは「最後まであきらめずにポイントをとるためにメンタル面を鍛え、世界大会に備えたい。絶対に優勝し、表彰台の一番上に立ちたい」と意気込みを語りました。

4月13日～5月24日

近江八幡図書館で  
ウクライナの子どものための絵画展を開催

ロシアのウクライナ侵攻を受け、軍事侵攻の背景や歴史、文化を学び、平和を考えるきっかけにと、近江八幡図書館で「ウクライナの子どものための絵画展」が開催されました。

軍事侵攻の直後、同館で実施していたウクライナや戦争関連図書を集めたコーナーを見たウクライナと親交のある市民が、子どもたちの絵画を活用できないかと申し出があったことが開催につながりました。

戦禍以前のウクライナの子どものための絵画28点を展示。やわらかな色彩で描かれ、平和だった日常がうかがえました。

5月9日

市役所前交差点の交通安全向上へ  
横断歩道歩行者への交通安全対策機器を寄贈

近江八幡地区交通安全協会が、横断歩道に歩行者がいることをドライバーに知らせる注意喚起灯の「ゆずるくん」と「簡易スポットライト」を市役所前交差点に設置し、市に寄贈しました。

センサーが歩行者を感知すると、黄色のLEDライトが点滅するもので、県内で初めての設置となりました。

この日の点灯式では、さくらっこ保育園児や関係者らが横断はじめを行いました。

同協会の上阪廣子会長は「3年前の天津や2年前の栗東での悲惨な事故が市内で起きないことを願っています。皆さんも交通ルール、交通マナーをぜひ守ってください」と話しました。

4月29日～5月15日

現存するヴォーリズ建築を特別公開  
春のヴォーリズ建築めぐり

近江八幡観光物産協会が、市内に点在するヴォーリズ建築をガイド付きで歩くイベントを開催し、県内外から多数が参加しました。

ウォーターハウス記念館に集まったあと、近江兄弟社メソッド資料館や、旧八幡郵便局、アンドリュース記念館、ヴォーリズ記念館などを訪れ、最後にヴォーリズ学園内のハイド記念館・教育会館で解散しました。

参加者は、建築様式やヴォーリズの生涯、考え方などの話に聞き入ったり、写真撮影を楽しんだりしていました。